

go.jp/press/files/jp/105038.pdf. (2018年3月31日アクセス)  
 田中良尚, 2017. 琉球列島に分布するマルバネクワガタ -  
 成虫が秋に出現する謎を解く-. 昆虫と自然, 52(5):  
 14-18.

田中良尚・荒谷邦雄, 2017. 国産タテヅノマルバネクワガタ  
 種群の生息現状. 月刊むし, (561): 2-14.

(2018年5月2日受領, 2018年6月15日受理)

### 【短報】クロモンヒゲナガヒメルリカミキリの種子島からの記録と新食樹

クロモンヒゲナガヒメルリカミキリ *Praolia yakushimana* Hayashi は屋久島から記録され (Hayashi, 1976), その後, 鹿児島県大隅半島南部からも記録された (森, 1991). 筆者らは 2018 年 2 月 21 日に種子島の国有林 (鹿児島県西之表市安城, 金谷ら, 2004) でヤクタネゴヨウ *Pinus armandii* Franch. var. *amamiana* (Koidz.) Hatusima の新しい枯死木 1 本と 1 年前の枯死木 2 本を伐倒し, マツノザイセンチュウ *Bursaphelenchus xylophilus* (Steiner et Buhner) Nickle の感染の有無を調べるために幹の一部を切り取り, 茨城県つくば市の森林総合研究所に送付した. その幹は新しい枯死木 (2 箇所から採集) 直径 3 cm と 5 cm, 長さ各約 30 cm, 40 cm, 1 年前の枯死木,

直径 2 cm, 長さ約 20 cm のものを 2 本, 計 4 本である. いずれも被圧による枯死木と考えられる.

これらの幹を長さ 90×45×30 cm の衣装ケースに入れ, 室内に置いた. クロモンヒゲナガヒメルリカミキリの脱出成虫を見つけたのは 2018 年 4 月 13 日である. 脱出したが, 見つけた時には死亡していた個体が多く, 生存個体は 2 個体のみしか見出せなかった (図 1E).

加害状況について, 一部割材したので簡単に述べる. 樹皮の薄い箇所は樹皮下を食害し, 糸状のフラスを残す (図 1A). そして, 材入する. 直径 2 cm の幹の場合は材内へ深さ 2 mm (図 1B), 直径 5 cm の幹では深さ 5 mm でどちらも辺材部である. 材入後は辺材部を食い進み (図 1C), 材表面に向かい垂直に脱出孔を開けて脱出する. 脱出孔は直径 2 mm

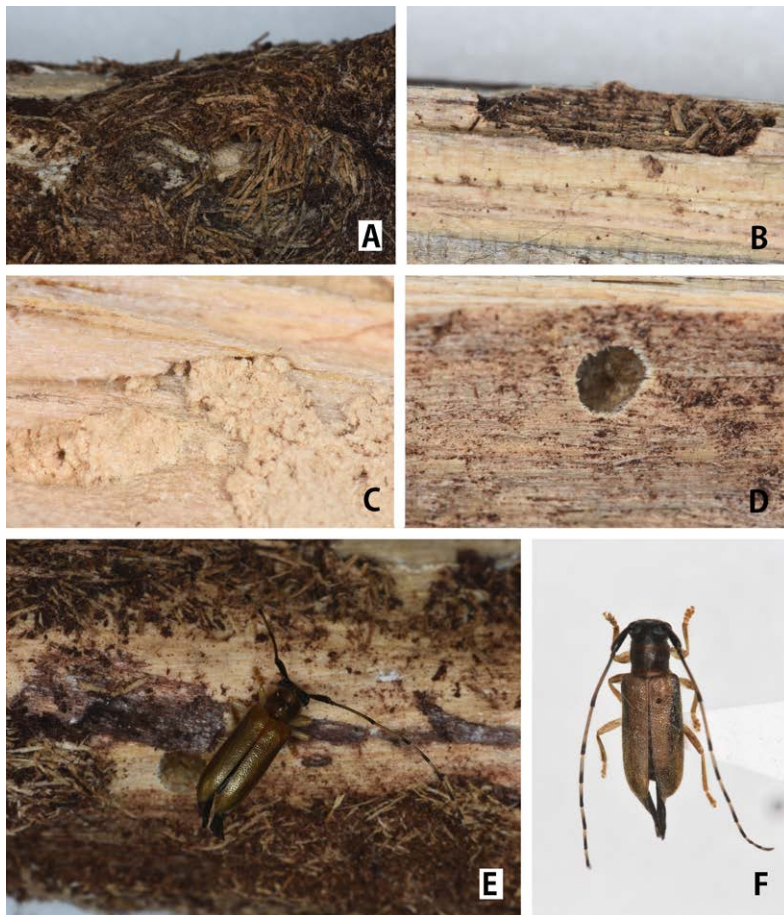


図1. 種子島のクロモンヒゲナガヒメルリカミキリ. A, 樹皮下の食害状況; B, 材入部位; C, 脱出孔の真下の食害部; D, 脱出孔; E, 脱出成虫, 図は生存中を材に止まらせたもの; F, 雌成虫.

の円形である(図1D). 見つけた成虫は7個体であったが, はっきり脱出孔と確認できたのは, 1年前の枯死木と, 新たに枯れた木からの各1個である.

森(1991)よれば, 本種は1世代1年よりも2年の方が多いと報告している. 今回は1年前と新たな枯死木からの脱出は確認できたが, どちらが多いかどうかは未確認である. 材は来年まで野外網室に入れたので, 来年には明らかになる.

これまで, クロモンヒゲナガヒメルリカミキリの食樹として記録のある樹種はシキミ *Illicium anisatum* L., アカメガシワ *Mallotus japonicus* (Thunb.) Muell. Arg., フシノハアワブキ(リュウキュウアワブキ) *Meliosma oldhamii* Miq. ex Maxim. (小島・中村, 2011) の3種でいずれも広葉樹である. ヤクタネゴヨウのような針葉樹の記録は初めてである. また, 産地として種子島から初記録となる.

なお, 本種は鹿児島県レッドリストにおいて絶滅危惧I類とされている(鹿児島県, 2016). ヤクタネゴヨウについても, 環境省版レッドリストにおいて絶滅危惧IB類とされている(環境省, 2017).

羽化データは下記の通りである.

2♂5♀, 13–24. IV. 2018, 松の里1, つくば市森林総合研究所, 秋庭満輝採集.

本報をまとめるにあたり, 鹿児島市の森一規氏に食樹や分布などの情報を, また林野庁屋久島森林管理署ならびに屋久島森林生態系保全センターには, 環境調査ならびにヤクタネゴヨウの資料採取の許可をいただいた. ここに謝意を表する.

## 引用文献

- Hayashi, M., 1976. Studies on Asian Cerambycidae (Coleoptera) I. Bull. Osaka Jonan Women's Junior College, 11: 1–24.
- 鹿児島県, 2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動物植物 動物編 鹿児島県レッドデータブック. 401 pp., 鹿児島県環境技術協会, 鹿児島.
- 環境省, 2017. レッドリスト 2017—維管束植物—. <https://www.env.go.jp/press/files/jp/105449.pdf>.
- 金谷整一・池亀寛治・手塚賢至・寺川真里・湯本貴和, 2004. 種子島におけるヤクタネゴヨウの新群生地の発見. 保全生態学研究, 9: 77–82.
- 小島圭三・中村慎吾, 2011. 日本産カミキリムシ食樹総目録(改訂増補版). 506 pp., 比婆科学教育振興会, 庄原市.
- 森 一規, 1991. 大隅半島南部のカミキリムシ. 月刊むし, (240): 4–13.

(横原 寛 298-0002 いすみ市日在 2033-5)

(秋庭満輝 305-8687 つくば市松の里1  
森林総合研究所)

(金谷整一 860-0862 熊本市中央区黒髪 4-11-16  
森林総合研究所九州支所)

(池亀寛治 891-3101 西之表市 9689  
種子島・ヤクタネゴヨウ保全の会)

## 【短報】 タケウチヒゲナガゴバナネカミキリの新食樹

タケウチヒゲナガゴバナネカミキリ *Glaphyra takeuchii takeuchii* (Ohbayashi, 1937) の食樹として, これまでハイノキ科 *Symplocos* の *Symplocos glauca*, クロキ *S. lucida*, シロバイ *S. luncifolia* とミカン科 *Rutaceae* のハマセンダン *Euodia melifolia* が知られていた(小島・中村, 2011). しかし, 北限にあたる伊豆半島(大林・新里, 2007)の静岡県天城山でツバキ科 *Theaceae* のヒサカキ *Eurya japonica* からの羽化が確認されていた. なお, 分布の北限は Amagi-toge, Shizuoka Pref., 15.V.1965, N. Enda leg. に基づくものである. 羽化データは下記の様である.

ヒサカキの枯木より羽化, 7♂11♀, Mt. Amagi, Shizuoka Pref., 5–10. V. 1968, N. Enda leg.

なお, 材の採取に関しては本人が故人のため, 不明である.

故遠田暢男氏は長年に亘り, 森林総合研究所でマツクイムシ, スギ・ヒノキ穿孔性害虫などの防除に貢献されてきた方で樹木種にも造詣の深い方である. 改めて故人の冥福をお祈りすると共に, 厚くお礼を申し上げる.

## 引用文献

- 小島圭三・中村慎吾, 2011. 日本産カミキリムシ食樹総目録(改訂増補版). 506 pp., 比婆科学振興会.
- 大林延夫・新里達也編, 2007. 日本産カミキリムシ. 818 pp., 東海大出版会, 小田原.

(横原 寛 298-0002 いすみ市日在 2033-5)



図1. 羽化してきたタケウチヒゲナガゴバナネカミキリ. 雄(左) および雌(右).